

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	福島の子ども保養プロジェクト・杉並の会
支援対象者・エリア	福島県在住で放射線被曝回避の保養を希望する親子
企画開催地	山梨県忍野村
企画名称	福島の子ども保養
実施期間	2018年8月13日～17日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

今回で7回目の取組です。原発事故の翌年6月、杉並公会堂で脱原発集会を取り組み、集会だけでなく継続的に福島への支援活動をと3か月余りで保養キャンプを始めました。最初、子どもたちが外で遊べないストレスだと思いますが、スイカ割をやると何度も叩いてやめない、またお父さんお母さんも「福島叩き」で1年間県外に出たことも無いなどで交流会も開けませんでした。

その後、繰り返す中で、子どもたちにも落ち着きが出てきたように思います。「福島では話せない」ことが交流会で話されるようになりました。また区の広報に掲載して杉並の親子の参加も続け、ボランティア募集を大学に呼びかけ、また友人に話して若いスタッフの参加もあります。交流・行事を通した話し合いで、マスコミ報道でない生の声を通して福島の現実を知り、自分だったらという想像力をもって思える場になっていると思います。

毎年、個人・団体やお店などのカンパに合わせて駅頭カンパ活動を数年前から始めましたが、残念ながらカンパ額が減っています。ある労働組合の女性部が毎年、福島現地訪問と報告を行う中でかなりの金額が寄せられているのも大きな支えです。

今年から、保養する人とされる人という関係ではなく、福島のお父さん・お母さんの意見も取り入れ、いっしょに行い始めました。これを、どう引継ぎ、前に進めていくか重要なと思っています。

活動の様子（写真など）



ピザ作り↑ 工作↓



遊び↑ そうめん流し→

